

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300768		
法人名	医療法人 社団 健成会		
事業所名	グループホーム ふれあいの家 御薬園		
所在地	熊本県人吉市七地町495		
自己評価作成日	令和元年7月1日	評価結果市町村報告日	令和元年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和元年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日本三大急流『球磨川』沿いに施設があり、ゆっくりと自然豊かな場所で生活が出来る。ご家族には近況報告の便りを2ヶ月に1度発送しているほか、交流会を持ち回りの機会を作っている。地域に根差した事業所作りの為、地域の清掃活動への参加・敬老会への参加を行い地域住民との交流を図っている。また、毎月の回覧板に事業所の取り組みをのせ開かれた事業所作りを意識している。隣には同法人の介護保険施設があり、イベント等交流も盛んである。また、同敷地内に協力医療機関があり、訪問看護ステーションと連携を図り、入居者・その家族の方が安心して生活できるように協力体制を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院や介護保険施設に隣接することで健康面や緊急時の協力体制も構築されており、入居者・家族にも安心した生活となっている様子がかがえました。職員間では入居者一人ひとりに対し「生活の課題は何か」「入居者に対してできることはないか」「昨日とどう違うか」等、常に考える仕組みが構築されており、毎日の生活そのものがアセスメントと繋がっています。この仕組みは業務・ケア・環境の見直しにもなり、それはまた質の高いケアに繋がっている様子が見えました。今後も、理念である「ゆったりと一緒に楽しみながら、自由気ままにその人らしく」の暮らし、「自分でやれる喜びと達成感、共に喜び、安心した生活を」送る事のできる生活の支援に期待しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、その方の出来る事をアセスメントし、達成できる喜びや生活の中に役割を持つことを実践している。同じ時間や空間を共にすることで、安心できる関係性を構築している。	理念のひとつである「自分でやれる喜びと達成感、共に喜び、安心した生活を」は日頃のケアにも表れ、職員それぞれが入居者の出来る事、日々の様子を考え、共有することで実践に繋がっている。理念についての職員研修も行っている。	日頃の業務の取組が理念に繋がるものである様子がうかがえました。理念とケアの繋がり、理念の意義等、振り返りを持つ機会に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会や清掃活動への参加を行い、地域住民との交流の場を持つようにしている。買い物やドライブ等を取り入れる事で出かける機会を作り、地域とのつながりを保つようにしている。	地域の敬老会や清掃活動への参加は職員含め事業所全体での交流が続いており、入居者の参加は状況にはよるものの継続したものとなっている。事業所と地域の関わりは年間を通じて行われている。	これまでの継続した取組で、事業所の地域への認知、また相互交流による日常的な関わりとなっている様子がうかがえました。今後も事業所と地域また入所者との関わりへの支援の継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人では地域で生活されている高齢者を対象に健康教室を定期的に開催するなどしている。運営推進会議構成員である家族や町内会長・民生委員への認知症の方への対応方法など情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や事故報告等の近況を報告し意見交換を行っている。意見交換を元に、再検討や取入れを行う事でサービスの質の向上につなげている。	町内の方々や行政参加のもと行われる運営推進委員会では、日頃の活動や入居者状況等の報告と意見交換を行っている。管理者からは職員のケアのあり方・意見についても述べられ、事業所の理解も深められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を通し、日常の状況等の報告は出来ている。また、市町村主体の研修等にも参加し、ケアサービス等の質の向上や協力関係を構築している。	市担当者による運営推進会議への参加もあり、事業所の日頃の様子の報告等も行われている。会議には地域・家族の参加もあり、相互の情報交換の場ともなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての内部研修を行う事で、職員の共通認識を統一している。身体拘束がもたらす弊害を認識し、拘束しないケアを行っている。玄関の施錠は防犯上夜間のみ施錠を行うようにしている。	管理者が構成員である法人の委員会内容は職員にも伝えられている。薬の量、職員の言動等、拘束にならない日々のケア・見直しが継続して行われている。どうしても事例が考えられる際にはアセスメントを行い、家族も交えて話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会を通し、どのようなことが虐待になるのかを理解し、仕事に従事している。管理者や共に働く職員は互いの心身の状態が普段通りかお互いを意識するようにしている。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などを通し、知識を深めている。現在、利用されている入居者はおられないが、これまでも成年後見人をたてられている方もおられた為、今後も必要性の有無を随時検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度管理者の方から説明を行うと共に、疑問点や不明点が無いかの確認を取っている。理解納得が得られてから署名を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情・要望がないか入居者の言動に注意して見ている。頂いた意見に関しては、スタッフ間で共有し、対応できることに関しては速やかに対応を行うようにしている。	日頃の関わりの中で入居者の意見・要望への気づきを大切にしている。家族面会は職員からも声を掛け、意見・要望の機会と捉えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃からスタッフの運営に関する意識を高める様、声をかけている。スタッフからの意見はその都度管理者の方で把握し、施設運営に反映させている。	日頃の業務の中で管理者は職員に対し声を掛けており、入居者・ケア・業務・環境等、多面から職員が意見を出す仕組が出来ている。職員の意見は管理者により把握され、運営への反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の面談・評価を行う事で、到達点の確認やそれぞれの持つ課題を明らかにしている。スタッフの不安や目標も把握を行い、達成のための道筋を普段の仕事からコーチングしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・法人内の勉強会を行うほか、外部研修の案内もその都度掲示し、自己研さんの為の機会を設ける様にしている。また、日々の業務を通し出来るようになる為の指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会を2ヶ月に1回開催している。その中で、意見交換会や親睦会、勉強会に参加し様々な情報を得たり、交流の場を作ったりしている。また、法人内の職員とも連携し、個々の質の向上から事業所の質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までにスタッフが管理者のみならずスタッフも訪問を行い、入居後も安心できる関係作りにも努めている。本人が十分に訴える事が出来ない事もある為、普段のご様子を知っている方に話を伺うこともしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の気持ちの確認を行うほか、入居後も情報提供を細やかに行い、家族の不安や要望がないかの確認を行っている。普段から話しかけられやすい雰囲気を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況・性格・認知症の状態等を把握、家族・本人の希望を確認し初期ケアプランを作成している。プランを元にサービス提供を行い、2週間後に評価しケアプランの立案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる能力と見極め、失敗体験のないように生活の中に役割を持ち、生活を楽しくして頂ける様配慮している。職員が出来るだけテーブルで一緒に過ごす時間を作るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人のご様子を伝え、事業所と家族間で情報を共有している。また遠方の方へは電話やお手紙にて本人の状況や状態をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の情報を聞きながら馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。また知人の方が気軽に訪問できるような環境づくりに努めている。	地域での敬老会への参加や地域からの訪問、家族や以前の入居者の家族等、外出・来訪での関わりが継続している。家族の情報等も参考にし、これまでの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士での関わりや関係を把握出来ている。利用者同士の関わり合いに常に気を配り入居者が孤立しないように職員が間には入ったり皆で参加できる活動や行事を提供している。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入居されても、本人の様子を伺う為にお見舞いや訪問を行ったり、電話での状態把握に努めている。また家族の方とも定期的に連絡をとり、何か困ったことがないか聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、入居者の要望や意見を聞くようにしている。また仕草や反応からも把握するように努めている。困難な方には本人に合った暮らしはどのようなものを見つけ出すように努めている。家族から情報を得ることもある。	毎日の関わりの中で入居者の思いや意向の把握に努めているが、近年、思いが言葉で出ることが少なくなってきた状況である。職員は入居者の「生活での困り事」を考え、毎日の暮らしを考えることが日常的な業務となっている。	職員と入居者との会話内容を記した「トーキングサービス報告書」を利用し、職員間の情報共有がされています。また、入居者への気づきを大切にされたケアの状況がうかがえました。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を家族や担当ケアマネージャーより提供して頂いている。これまでの生活歴の把握に努め、入居後も馴染みの暮らし方が出来るようにしている。畳・フローリングの部屋があり選択できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、個々の生活状況・心身の状態変化を把握するようにしている。また家事やレクリエーションを行う中で、個々のレベルがどのくらいの状態にあるのかを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から本人・家族の意向を聴いている。それをふまえて介護に携わる事業所職員・看護師・医師との十分な話し合いの中で、最良の介護計画を作成するようにしている。	入居者・家族の意向を踏まえ、職員・関係機関の意見も取入れた入居者本位の介護計画を作成している。日頃の業務で、「入居者の生活の問題点」「問題解決にはどうしたら良いか」を出し合う仕組みがあり、現状に即した介護計画の作成にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	僅かな状態の変化でもカルテに詳細を記入している。職員間での情報を共有し、介護計画に沿ったケアを実施している。また、それに伴う介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族のニーズに応えられるように努めている。法人全体の協力を得ることが可能な為、必要に応じて通院等、柔軟に対応している。遠方に家族がいる方は市役所への手続き等、職員の出来る範囲で対応している。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見やお祭り等に積極的に出かける様になっている。また地域の方がボランティア等で来園される時には、一緒に活動へ参加するようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医を確認している。現在は全入居者が系列病院の主治医であり月に2回定期受診を行っている。また入居前から通院されている専門医への受診も援助している。	入所前のかかりつけ医の継続受診を支援するが、入居時に系列病院を希望されることが多い。系列病院では訪問ステーションもあり、緊急の場合も適切な医療を受けられる。専門医受診は家族とも協力しながら職員で通院介助を行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な心身の状態変化があれば、訪問看護に報告し指示を仰ぐようになっている。また週1回の訪問による全身状態のチェックや夜間の緊急時にも対応してもらえるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合には情報提供書を作成し病院へ申し送りを行っている。また必要に応じて主治医からの情報提供書も依頼している。入院後は病院を訪問し状況把握に努めている。SWとの連携も随時行いスムーズに退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には終末期について説明を行っている。症状が変化した際には、その度、本人・家族と相談し方向性を確認している。医師・看護師・職員・家族と共に協力して実施出来るように説明を行っている。	入居時及び実際にその時期を迎えた時、都度説明し話し合いを持ちながら支援を行っている。「入居者・家族の後悔が無い様に」を思い、体制を整えている。事業所・関係機関協力のもと、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、定期的に消防署の協力のもとAEDの使い方や心肺蘇生法等を学んでいる。また緊急時のマニュアルを作成しており、連絡方法や急変時の対応等についても内部研修を実施し職員への周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、定期的に防火訓練を実施している。災害時に適切な対応が行なえるように技術の習得や消火訓練等を行っている。また災害時の地域連絡網があり、必要な時には協力が得られるように備えている。	年2回の火災避難訓練の他自然災害訓練も実施している。法人内でも情報を共有しており、隣接する川の増水が心配された際には、隣接(高台)の施設への避難準備も整えた。災害時に備え、地域連絡網も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの性格を理解し、その方が安心するような声かけを行っている。排泄の声かけ等は他入居者に悟られないように気を配るなど人権の尊重には常に配慮しながら対応している。	日頃の業務の中でも声掛けや言葉遣いに配慮している。また、入居者の生活の様子や出来事等も個人情報であるとの考えから、朝夕の職員申し送りも入居者の前では行わず、場所を考え行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の考えや希望を傾聴し、表情等から本人思いを汲み取ったり、選択肢を用意する等出来るだけ自己決定してもらえるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりの生活ペースに合わせて、起床・入浴・臥床等支援している。出来る限り入居者の希望やその日の体調に合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等、本人と一緒に洋服を選んだり、髪を整えたりお化粧をする場を設けたり等の支援を行っている。また外出等される場合にも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り調理・配膳・後片付け等を入居者と職員と一緒に出来るように取り組んでいる。好き嫌いのある方も他の食材で対応し盛り付けは彩り等を考慮しながら行っている。	法人管理栄養士による献立を基本とした食事を提供している。事業所で味つけ調理するメニューもあり、配膳・片付けまでできる範囲での入居者の関わりもある。それぞれの状況に合わせ、とろみ・きざみ食等、カロリー計算もされており、個別対応が可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の下、栄養バランスのとれた食事を提供している。また入居者の状態に応じて食事形態を工夫しながら提供している。毎食後、食事・水分摂取量の記録を行い摂取量に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。介助が必要な方に対しては必要物品を準備し、本人で出来る所までは行って頂き出来ない部分を援助している。また口腔内の歯肉や残存歯・口臭等の確認を行っている。		

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表を用いて排泄パターンの把握を行っている。オムツ類の使用を極力少なく出来るよう時間や失禁の種類・薬剤等のアセスメントを行っている。	入居者一人ひとりのパターンの把握等で排泄の自立に向けた支援を行っている。現状屋間は布パンツの利用が殆どである。安易におむつの使用はせず、トイレ誘導等によりリハビリから布パンツへ改善された例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因が何かをアセスメントし、日々の生活や排泄援助の方法に反映させている。また棒体操等、運動への働きかけや起床時の牛乳やヨーグルト等の摂取を行い便秘の予防改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日入浴にて対応を行っているが、本人の希望や必要性があれば毎日入浴や夜間浴を適宜行っている。入浴拒否のある方はアセスメントを行いその方の入浴スタイルに合わせて対応している。また季節に応じて菖蒲湯等の変わり湯を実施し楽しんで頂いている	入居者の意向を確認しながら隔日の入浴を基本としている。一日の状況を踏まえ変動もある。月1回職員もアイデアを出し、「かわり湯」を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせて就寝や日中の臥床を実施している。夜間帯は室温・寝具の調整や照明等に配慮し良質な睡眠がとれるように努めている。また希望時には湯たんぽの使用も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・用量・効能・副作用については1人ひとりの薬と最新の処方箋を管理しており職員がすぐに確認できるようにしている。入居者の体調に異常があれば医師・看護師に指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者1人ひとりの性格や好みを把握し、今までの生活歴を参考にし、役割や仕事等を提案している。本人の好まれる活動も援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望を聴き、四季折々の草花等を見に散歩やドライブへの誘いかけを行っている。また初詣や地域のお祭り等を見に行ったり入居者の方が行きたい所に行けるよう支援している。	一人ひとりのその日の希望によって外出することは入居者の状況から難しくなってきたのが現状であるが、隣接する病院への受診や季節の花見学ドライブ等、機会毎に外出支援を行っている。	日常的な外出は事業所でも課題として捉えられており、難しい状況の中での支援状況をうかがえました。家族等の協力も得ながら、継続した支援に期待します。

グループホーム ふれあいの家 御薬園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や金銭管理能力を把握したうえで対応している。買い物際には金銭の受け渡し・計算等の手伝いを行い出来るだけ本人が自分の意思でのもと金銭が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には可能なかぎり電話を取り次いだり手紙や年賀状なども必要に応じては職員で代筆を行うなど支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い生活が出来るように、空調や照明等に配慮している。また季節の花を飾ったり、雛人形や十五夜のお供え物等、常に四季を感じられるような空間作りに努めている。	入所者が心地よく過ごせる様に配置に配慮されたリビングの食卓には季節の花が飾られ、彩りを添えている。入居者同士が仲良く過ごすことができるよう配慮された生活空間であり、入居者同士話す姿や、部屋で過ごす入居者に声を掛けたりする様子も日常的なものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自分の時間を持てたり、入居者同士が交流を図れるよう日々の状態を把握し関係性や相性等も配慮した空間作りを行っている。また廊下や玄関には腰掛けられるスペースが設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのある家具等を活用したり家族との写真を飾るなど本人の要望や好みに合わせて居心地良く過ごせる居室作りを行っている。	フローリングと畳敷きの部屋があり、洗面台と押入れが作られている。それぞれに持ち込まれた家具や生活用品、家族の写真等、居心地良く過ごすことができる部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの能力に応じて居室内の配置を変更したりと、なるべく自分で出来るように考慮している。屋内の生活同様、屋外活動も安全に出来るよう配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 ふれあいの家御薬園

作成日 令和1年10月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	入居者の年齢層が幅広いが、生活リズムや活動と一緒にいる事に無理が生じている。	一人一人の持てる力を発揮できる環境を整え、ゆったりと生活出来るようにする。	1. 一人一人に合った生活リズム・活動内容の見直しを図る。	6ヶ月
2	3	地域に向けての開かれた事業所作りを行う意識はあるが、地域の方の相談までには至っていない。	地域の方が相談しやすい事業所作り・関係作りを行っていく。	1. 地域への回覧板の継続を行うと共に、活動時には積極的に交流を持つ。回覧板の困りごと相談の窓口を明確にする。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。